

高等学校日语教材

大学日语视听

日本の姿

—日本社会へのお誘い—

(第二版)

苏君业 编著



大连理工大学出版社

高等学校日语教材

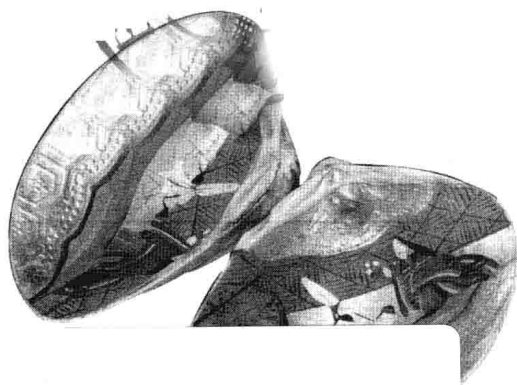
大学日语视听

日本の姿

—日本社会へのお誘い—

(第二版)

苏君业 编著



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

大学日语视听 / 苏君业编著. — 2 版. — 大连 :
大连理工大学出版社, 2013. 6

高等学校日语教材

ISBN 978-7-5611-7993-2

I. ①大… II. ①苏… III. ①日语—视听教学—高等
学校—教材 IV. ①H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 139373 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84703636 传真:0411-84701466

E-mail: dulp@dulp.cn URL: <http://www.dulp.cn>

大连日升印刷厂印刷

大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:140mm×203mm 印张:15.25 字数:380 千字

附件:光盘 2 张

印数:10501~12500

2008 年 6 月第 1 版

2013 年 6 月第 2 版

2013 年 6 月第 5 次印刷

责任编辑:宋锦绣 张 凡

责任校对:成 皎

封面设计:宋 蕾

ISBN 978-7-5611-7993-2

定 价:38.00 元

出版に寄せて

著者蘇君業女史は2006年度、大連外国語学院から招聘教員として1年間日本の岡山商科大学にお越しいただいた。これをご縁に著者が出版される本書の冒頭に「出版に寄せて」のあいさつ文を書かせていただくことは光栄である。

近年、情報教育機器が発達し、広くそれが普及してきたことに伴い、日本語教育を行う場合、視聴覚教育は重要な役割を果たしてきた。特に映画、テレビドラマ、ドキュメンタリー番組などを用いた映像教材は、日本語視聴覚教育の中で幅広く取り入れられるに至っている。上級日本語教育では、その日本語聴解能力を高めるためには日本語が話される状況設定が極めて重要であることから、視聴覚機器をどのように活用するかが重要な課題となってきた。情報機器の活用によって、短時間で実生活の擬似体験を可能とすることができるし、学習者は映像を通して、日本の文化や社会状況、人々の思考形式や習慣などを知ることが可能となり、日本に対する関心を高め、学習意欲や動機付けも強化されるからに他ならない。

今日では、映像教材も多種多様な広がりを見せており、そこに取り入れられた多様な映像素材は視聴覚教育をより豊かなものとし、語学を学ぼうとする者により一層の臨場感を生み出すに至っている。

今日のAV機器の進歩は目覚しく、伝統的なテープレコーダー、VTRの時代から、VCD、DVD、MP4、パソコンなどの多様なメディアがあり、さらに、インターネットを活用する最新メディア技術を生かした多様な視聴覚教材が沢山登場するに至っている。事実、衛星報道やインターネットなどの複数のメディアを通じて、海外の遠い国からの日々の出来事は、即座に伝えられ、我々の身近な社会の出来事と同じく見たり聴いたりすることのできる社会が到来している。

このように、社会の変貌と共に、日本語視聴覚教育を取り巻く環境も大きく変わりつつあり、学生に「メディアを活用する能力」「メディアからの情報を受け止める能力」「メディアを介して表現する能力」という密接不可分の三つの能力を涵養させることが教師の新しい役割として台頭するに至っている。特に、今日では、上級言語を教える者にとっては重要な課題となってきた。

本書は、日本語教育に長い間携わり、しかも、この過程において数次にわたって日本で教鞭をとった豊かな経験を基に、視聴覚教材の実践的な可能性を探りつつ、新しい日本語教育のあり方が展開されている。この意味において本書は画期的なものであると高く評価できる。

本書の構成は次のようになっている。

第1課から第20課は、本書が日本語を学ぶ学生諸君のために供することを意図したものであり、日本国際交流基金とNHKインターナショナルの企画制作したものを参考して、本書に織り込まれている。第21課から第30課の内容は主に2006年度に日本の大学で1年間教鞭をとった体験を踏まえ、第二のふるさととなった岡山の歴史、風土、文化の薫り高いものとされている。まだ今時の日本の若者の主張が反映されるよ

うな青春メッセージや日本で人気のあるアニメやドラマが取り入れられていた。

本書の基本姿勢は効率的な日本語の学習が意図されていることから、用語の解説や設問が随所にほどこされ、とりわけ指摘しておきたいことは、本書の展開にそったDVDも準備されていることである。語学の学習は文字を追う学習だけでは不十分であり、映像や音声が伴って初めて語学学習はより効果的なものとなる。この点は長年日本語教育の教鞭をとってきた経験から生み出されたものであり、このたびの本書は心憎いばかりの配慮がなされており、画期的なものとなっていることが特徴的である。

言葉はコミュニケーションの手段であり、TPO(Time・Place・Occasion)に即して言葉が伝える内容も変わる。本書は、よりいっそう日本の風情を捉えたものとなっており。日本での教鞭の経験を重ねた著者ならではの力作である。

2008年4月 吉日
岡山商科大学学長
井尻 昭夫

第二版前言

随着中日交流的不断深入，自上个世纪80年代兴起的日语学习热潮一直持续至今，学习日语的人数逐年创历史新高。据报道国内2006年参加“日语能力考试”的人数已突破20万人大关，国内在校的大学生及研究生学习日语的人数已超过40万人。在日本随着日本少子化时代的到来，从2007年起日本大学已进入全入学时代，越来越多的日本大学开始青睐中国留学生市场，争夺中国的优秀人才，留学日本成为一种新的时尚；同时，中国国内日资及合资企业也需要大批既精通日语、又熟悉日本文化、日本商务知识或掌握IT知识的专业人才；此外，每年有300万至400万的日本游客赴中国旅游也需要相当数量的日语导游人员。总之，社会对日语人才的需求与时俱进，特别是对具有高水准专业日语人才的需求一直是供不应求。因此通过大学日语专业课堂教学和优秀教材的开发让具有高水准的专业日语人才脱颖而出，成为高校日语教育界备受瞩目的研究课题。

笔者20年来一直在大连外国语学院从事日语教学，特别是对高年级的视听课教学情有独钟。结合大连外国语学院传统日

语教学“听说领先”的特点，多年来充分利用先进的多媒体设备，在视听教材的开发上不断总结经验，并进行了各种探索和尝试。随着信息化社会的到来和多媒体技术日新月异的进步，卫星接收、网络视频、日剧等多媒体学习素材铺天盖地而来，这些媒体的介入为日语学习者提供了广阔的学习和实践的空间。通过对各种多媒体题材进行筛选、甄别与汇总，编著与高年级学生专业水平相适应的视听教材，把一个比较完整的日本社会和地道日语表达的语言环境原汁原味地呈现给学生，通过视听说让他们以身临其境的感觉在日语表达的空间纵横驰骋，以期待实现日语综合能力由量变到质变的飞跃，这是笔者编写本书的初衷和对学生美好祝愿。

本书作为大学日语专业高年级视听教材，主要选取了日本国际交流基金和NHK国际中心制作的介绍日本人生活方式的20集专题片，另外还选取了介绍日本人文景观、自然风光、传统艺术、传奇人物、大学介绍等内容。本书自2008年出版发行以来，5年间已被多所大学的日语专业教学所采用。也得到了不少教学单位和学习者的反馈意见。因此在本书第二版发行之际，本着进一步提高单位时间学习效率，拓宽学生视野和提高日语交际能力为宗旨，对本书的内容和难度做了部分调整。删除了第一版占篇幅较多的2课电视剧内容，取而代之新增了能反映日本传统文化理念、现代科技进步的成果以及日本人自强不息奋斗精神的8个纪录片。第二版的修订更加充实了课堂教学内容，在循序渐进的基础上进一步提高了教学难度。恳请各位读者不断提出宝贵意见，

使本书能够更加充实和完善。为了答谢读者。第二版随书赠送两张本书内容的DVD光盘。

本书在编写过程中承蒙财团法人日本冈山县乡土文化财团和日本冈山商科大学的鼎力相助，无偿为本书提供有关视听资料版权，在此表示衷心的感谢。同时得到了日本友人冈山商科大学井尻昭夫校长和土井宏辅事务局长的大力支持，还有大连理工大学出版社的积极配合，才使本书得以顺利出版，在此一并表示诚挚的谢意。

大连外国语大学

苏君业

2013年6月

目 次

第1課	高校生群像	1
第2課	ホームステイ	15
第3課	僕は開拓四代目	25
第4課	大学生諸君	37
第5課	留学生ダレスさんとラーマンさん	48
第6課	当今主婦事情	57
第7課	フリーター	65
第8課	結婚新事情	77
第9課	女子大生 東京一人暮らし	90
第10課	花盛り 第二の人生	102
第11課	サラリーマン一家の日曜日	113
第12課	包丁一本	124
第13課	単身赴任	137
第14課	ハロー！ふるさと	148
第15課	警察官物語	157
第16課	女性社長の日々	170
第17課	おやじの海	182

第18課	鹿野山小学校……………	195
第19課	マンガ家志願……………	206
第20課	ヤンママたちの近況報告……………	218
第21課	特別名勝 岡山後樂園……………	232
第22課	備前焼……………	242
第23課	瀬戸内海……………	252
第24課	岡崎嘉平太……………	264
第25課	君よ、知の扉を開け……………	277
第26課	日本理解の鍵——社会と文化・調和と独自性 ……	285
第27課	日本人のくらし——流行を創る若者……………	312
第28課	日本美の再発見——加賀友禅・誕生秘話……………	320
第29課	プラズマテレビ——愛の文字から始まった……………	328
第30課	通勤ラッシュを退治せよ ——世界初・自動改札機誕生 ……	340
第31課	命の水 暴れ川を制圧せよ ——日本最大 愛知用水・13年のドラマ ……	353
第32課	お茶パワー 戦国を動かす ——千利休と豊臣秀吉・友情と別れ……………	368
第33課	情熱が、ビジネスを動かす ——広報PR・伊藤美恵 ……	389
第34課	日本での日々……………	402
第35課	NHK青春メッセージ2003 ……	411
	影视作品欣赏 魔女の宅急便……………	437

第1課

高校生群像

父と同じ神主の道を志しながら逡巡している男子、親の危惧と励ましを受けながらプロのミュージシャンを目指す男子、看護婦をしながら定時制高校に通う女子、この三人の学園生活を軸に日本の高校生の様々な姿を描いている。

15歳で義務教育の中学を終え、大学進学や社会に出るまでの3年間を過ごす所、それが日本の高校です。高校への進学率は、およそ96%。ほとんどの少年少女が、高校に進みます。日本では、高校生のおよそ3人に1人が大学に進みます。より有名な大学へ進もうという高校生は、学校が終わっても塾や予備校に通い、高校時代のほとんどを受験勉強に費やします。今では、高校そのものが、大学受験のためにあるかのように思われがちです。しかし、誰もがそうというわけではありません。自分達の生き方をしっかりと決め、着々と人生の目標に向かって努力している高校生がいます。

東京の西にある私立の高校、国学院大学久我山高校。ラグビーや野球が強い高校として知られています。ここでは、生徒に、規律正しい学校生活が求められています。

大学日语视听（第二版）

授業中、勝手にしゃべってはいけません。服装も、学校で決められた制服を着なくてははいけません。この高校には、このようにさまざまな規則があります。

これは、正しいお辞儀の仕方を習っているところ。女生徒には、こうした礼儀作法の科目まであります。授業は、男女それぞれ別々に行われます。校舎も男女別々に分けられています。男女交際より、まず勉強！

大学への進学率 70%と、大半の生徒が大学へ進むこの高校では、朝 8 時 45 分から夕方 3 時 15 分まで、国語、社会、数学、理科、英語と、大学受験に備えた授業がみっちりと行われています。授業の合間の休み時間は、10 分。

この高校は、国学院大学の付属高校なので、その大学に優先的に入学することもできます。小勝隆有君、2 年生。

「家はあの神社でして、どうしても家が神社の場合は資格がいるわけで。それをとるにはやっぱり国学院大学の神道科という所に行かなくてはならない訳ですよ。そういう場合に、父親としては僕を浪人させたくない訳で。年をとっているのです。そういう意味ですんなりと、わりと一般で受けるよりもすんなりと入れますよね。そういう意味で、ここを選んで僕に受けさせたのではないかと思いますよね。」

お父さんは、東京から、西におよそ 60 キロメートル離れた平塚で、「春日神社」という神社の神主をしています。家もお宮の中にあります。

神社とは、神を祭ってある場所です。その信仰は「神道」といい、日本固有のものです。この「神道」は、自然と祖先

を尊ぶ宗教です。そして、神主は、こうした神社に仕え、神を祭る儀式を行う神官です。

2時間かけて、ようやく帰宅、遅い夕食が始まります。小勝君は、5人兄弟の末っ子、上の4人はすべて女の子です。

「今日、雨でさ、神社の前の大きなシメがね、落ちちゃったのだよ。だから、手が空いた時にさ、助けてよ。」

神主は男が尊ばれるため小勝君は両親にとって待ちに待った男の子でした。お父さん52歳、お母さん41歳の時に生まれました。夕食が終った後、風呂に入ってすぐ勉強を始める小勝君。寝るのは、いつも11時過ぎです。小勝君のお母さんは、毎日、夜中の3時前に起きます。小勝君のお弁当を作るためです。

「私も主人も年をとっていますのでね。もうなんとしてでも早く成長してもらいたい訳なんです。隆有が脱線しないでね、ストレートに高校へ行って大学へ入って、そして卒業してもらいたいですね。だってもう指折り数えて待っているんです、私達。」

小勝君自身も、朝の4時半に起き、5時には家を出て、学校に向います。学校に着くのは、7時過ぎ。授業が始まる8時半までの1時間、自習をするためです。学校の行き帰りで、4時間も時間がさかれてしまうので、こうしたちょっとした時間も、貴重な勉強時間なのです。そんなわけで、友達と遊んだり、デートする時間などまったくありません。

「親の職業を小勝君は継ぐみたいだけど、そういうのはちょっと嫌だな、というのは少しあります。自由でいいですね。」「やっぱり、目標があった方がやりやすいと思うし。自分でも持てみたい

大学日语视听（第二版）

なと思いますけど。」「僕もゲームセンターに行って遊びたいとか、ドライブしたいと思ったならば、そうすると思います。今はその必要はないですし、僕自身、そうしたいと思わない訳ですから。僕は僕なりに、やりたいことと言いますか、自分の思ったことを、いちいちすべてできるとは限りませんが、どうしても重要なものから順番に形でやりこなすようにはしているんです。」

一見、映画のセットのような建物。様々なファッション、ヘアスタイルの若者たち。じつは、ここも高校です。この私立・東野高校には、制服も校則也没有ありません。自由を尊重し、生徒の個性を大切にしたい、日本では珍しい高校です。これは、演劇の授業。生徒それぞれが、思いのままの格好で授業を受けています。そして美術の時間。自由な校風を反映して、生徒一人一人の個性とても豊かです。色の使い方が非常に大胆です。ここにも、自分なりの生き方を探す高校生がいます。

藤田聖貴君もその一人。彼の高校生活3年間を振り返ってみると、そのほとんどがバンドの練習に費やされていました。藤田君は、なぜこの高校を選んだのでしょうか。

「人になんか指図されるのが嫌いだから、制服とか髪型とかも言われたくないし、だから、いいなと思って。これは行くしかない、そんな感じで来たんです。バンドをやる仲間も探さないとけないしと思って。見つかったし、できた。」

藤田君は、プロのミュージシャンを目指しています。卒業後も、東野高校で知り合った友達と一緒にアルバイトをしながらバンド活動を続けていくつもりです。藤田君の家は、国立市にあります。お父さんは、郵政省に勤めています。

「はじめはね、こう言ったんで、専門学校へ行きたいと、言ったんでね。専門学校と言っても、音楽関係と全然関係のない学校に行きたいというから、お前、何、考えているんだと言って、かなりやったことあるんですけどね。やるんだったら、徹底的にやれと。そのかわり、卒業したならば、この家から出て行って、いわゆるハングリー精神でやらないと、ものにはならないだろうとね。」

「夢？夢はナンバーワンになること、バンドで食べていくことです。もうお家、建てる約束したんです。もし売れてお金が溜まったら家を建ててやろうと。一軒家を建ててあげて、左団扇まではいかないけど、裕福な生活をさせてあげたいなあと。自分も色々お世話になっていますので、親には小さい頃から。」

今は、卒業コンサートの練習の真っ最中。高校生活最後の思い出作りに、一生懸命練習しています。

この病院で、看護婦の見習いとして働く辻さんも、実は高校生です。日本には、働きながら勉強したい若者のために、夜間の高校があります。辻さんは、病院の寮に住み、毎日仕事をしてから、夜、定時制高校に通っています。授業は、夕方の5時から夜の9時まで行われ、4年間通学します。生徒の数は少なく、1クラスおよそ10名ほどしかいません。

辻さんは、将来、正式な看護婦となることを目指しています。しかし、そのための高等看護学校には、高校を卒業した者でなければ入ることができません。辻さんにとって高校生活は、単に高等看護学校に入るためだけのものなのでしょ

うか。

「先のことは分かりませんが、4年間、卒業して、学んだこ

大学日语视听（第二版）

とがプラスになると思います。働くのは自分で決めたから、やるしかないって思っています。」

辻さんには、お姉さんと妹さんがいますが、じつは3人も同じ病院に勤めています。お父さんが小学校6年の時に亡くなり、お母さんは病気がちなので、中学を出て、みんな早く働くことにしたのです。病院に勤めたきっかけは、お姉さんの影響でしたが、今はこの仕事にやりがいを感じています。

「最後のお茶なんで。外来（患者）にかかると思いますけど、がんばってください。お大事に。」

今は看護婦見習いです。仕事は患者さんのお茶配りやシーツの取り替えなど。1日8時間働きます。

「私が、頑張れって、わざわざ声をかけなくても、三姉妹でね、友達として就職している訳ですしね。頑張れって言うよりも、私の方が声をかけてほしいくらい、すごいたくましい子ですね。」

「看護婦さんみたいに、そういう命、救うみたいな事はできないけど、一緒に、何か気持ちを和らげてあげたいとか、楽しく話をするぐらいの事しかできませんけど、結構楽しいですね。つらい事とかいちいち気にしていたら、仕事もつまらなくなっちゃうし、やる気も全然失せちゃうんで、楽しい事だけを考えて仕事をしています。」

ゆくゆくはお母さんと呼んで、この病院に入院させ、十分な治療をさせたいと考えています。

日曜日、街の至る所に、自動車の通行を止めた歩行者天国が生まれます。若者たちが、思い思いのスタイルで、休日を過ごしています。寸暇を惜しんで学ぶ高校生もいます。